

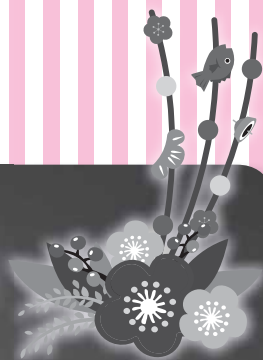
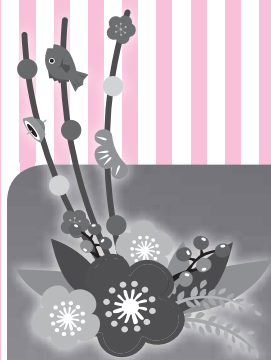
信頼される事業所をめざして

Vol. **216**

平成31年1月
発行:愛誠会
広報委員会

愛誠会

迎春



愛誠園、こすもす、みのり、ほべつ誠光、ほべつ誠和、ほべつ就労支援センター、むかわ夢風船

平成31年

年頭の ごあいさつ



理事長
横山 宏史

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

愛誠会は法人創立四十三年の歴史を刻む中で、高齢者介護と障がい者支援を柱に十一の事業を行うまでに発展してまいりました。

この間、国及び町の社会福祉制度は、変貌・充実をみましたが、今は「共生社会」や「地域包括ケア」と言う、より生活の場に密着した考えが加わりましたので、地域に根差した社会福祉法人の役割は一層広く、責任も大きくなってきております。利用者様はもとよりそのご家族様、地域の皆様、行政指導機関などの深いご理解と温かいご指導ご支援抜きでは成し得ないこととでございます。新年にあたり改めて感謝と御礼を申し上げます。

すとともに、ご指導ご支援をお願い申し上げます。

今年が年号が「平成」から次の年号に変わります。新時代において、すぐ消費税が引き上げられ、数年で、団塊の世代が後期高齢者に加わって、社会保障制度はどんな姿に変容を見せるのか注目されております。労働力不足を補う人口知脳（AI）が福祉分野にも進出してきます。これらから不安と期待が募り、そして興味深いところもでございます。

また、最近、グローバルな世界経済の行く手にはなにやら暗雲立ち込め、不透明感が濃くなってきました。世界の安定と平和、自由で豊かな生涯生活が保障されることを願うばかりでございます。

さて昨年は、春からの天候不順で農業には厳しい年となり、加えて九月六日深夜に起きた穂別市街からわずか十二〜三キロメートル西を震源とする強烈な地震に見舞われた波乱の一年でなかつたかと思えます。

愛誠会関係の被害は、人的には、二百三十名近く生活する利用者様の中で、軽症者二名に止まったことは奇跡に近く、施設被害は、半壊一施設のほか八施設が一部損壊と判定されました。長い期間、避難所や仮住まい生活を余儀なくされた障がい者グループホーム四施設の復旧を最優先させましたが、どうか従来の生活に戻っていただけの目的が立ち安堵しております。全体の復旧には今後数年かかるかと思えますので、法人財政への影響を考えながら早期復旧に最善を尽くしてまいります。この度の被災に対して、道内外からボランティアのお手伝いや見舞金、救援物資など温かい

手を多数差し伸べていただき、感動・感激いたしました。寄り添い支え合うことは、日本伝統の美德と言われてきましたが、心強く、感謝の気持ちで一杯でございます。

今回被災の経験を、利用者様の安全安心を託された事業所として、防災計画をしっかりと点検し、次に備える教訓としてまいります。

当法人には課題が山積であります。愛誠園改築等に向けた取り組みに停滞を来した感否めませんが、介護職員確保など並行して取り組み必要があります。役・職員一同不断の努力を続けてまいりますので、一層のご理解とご指導ご支援をお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。



ほべつ誠光・誠和

地域交流もちつき会



十一月二十五日、「富内地区にて地域交流もちつき会」が行われました。

当日は、寒かったのですが、利用者の皆様と地域の皆様が一丸となり、一生懸命お餅をつき、出来たお餅をお雑煮やきなこ餅にして、一緒に食べました。

「このお雑煮美味しいね!」「大変だったけど、楽しかったね!」等、利用者様の声が飛びかい、交流を楽しんでいました。富内地区の皆様ありがとうございました。



グループホームかつぶりんぐ

余暇活動支援



グループホームかつぶりんぐでは、十一月に苦小牧方面と千歳方面のグループに分かれて日帰り旅行に行ってきました。

千歳方面ではキックコーマンの醤油工場を見学してきました。普段からよく口にする醤油の製造過程や歴史の説明に利用者様それぞれ大変興味深そうに耳を傾けていました。



醤油の歴史を聞く



製造ラインの見学

苦小牧方面では苦小牧市科学センターで、宇宙ステーション「ミール」を見学して来ました。「ミール」の大きさに皆さん驚愕し、実際にその中で宇宙を何ヶ

月もすごしていた話を聞くと、信じられない様子でスタッフに質問されていました。

昼食後に買い物を終え、帰りの車中では「とても有意義な一日で、楽しかった」「また機会があれば見学したい」という声が挙がっていました。



ミールの説明



船内での説明

グループホームかつぶりんぐでは、震災により不自由な避難所生活を余儀なくされ、その後も富内地区の住宅を借りての慣れない生活からようやく穂別に戻ることが出来、利用者様も自分の生活を取り戻しつつあります。今後もこのような余暇活動を通して目には見えないストレスや悩みを気軽に打ち明けられる機会を提供して行ければと思います。

愛誠園

餅つきで皆笑顔



十二月六日、毎年恒例の愛誠園正面玄関で行っている餅つきがありました。

職員と一緒に利用者様方も暖かい服装をしながら餅つきを見学・参加されていきました。



利用者様方からは「餅つきをする、正月が近づいているって気持ちになるね。」「昔はあちこちで餅つきをしている人が居

たんだよ。」等と楽しみながら笑顔で話されている様子が伺えました。



昼食には、つきたての餅を使用した雑煮が振る舞われ、利用者様方は美味しいお餅を堪能されていました。また、今回作った餅に関しては、元旦と鏡開きにて提供させて頂きます。

お忙しい中、お手伝いして頂きましたボランティア様方へ感謝を申し上げますと共に、今後もボランティア活動へのご参加を心よりお待ちしております。

ケアハウスこすもす

読み聞かせ会



十一月十四日、「穂別読み聞かせの会ひまわり」のご厚意により、復興支援で穂別に訪れていた鉦路市にある児童書専門店「ブー横丁」の鈴木千恵さんが来所され、本の読み聞かせが行われました。最初は、静かに聞いているだけの利用者様でしたが、次第に鈴木さんの読み聞かせに引き込まれ、お話の場面に對して想いを発したり、問いかけに答えたりと、皆さん、童心に返り有意義な時間を過ごされました。



こすもすザウルス



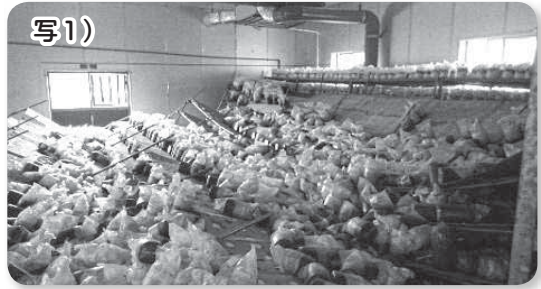
ケアハウスこすもすでは、余暇活動の一貫で、近年、発見され話題となっている「むかわ竜」にちなんで、恐竜の貼り絵を作成しました。途中、地震の影響で制作が中断されましたが、利用者様の震災に負けない前向きな気持ちで作業を再開し、完成した作品は、「こすもすザウルス」と名付けられ、震災復興への思いも込められた力強い作品となりました。十一月に行われた「むかわ竜公開」の会場に展示され、来場者を楽しませました。

ほべつ就労支援センター

復興に向けて

胆振東部地震から三ヶ月が過ぎ、菌床椎茸の生産工場の緑竜アペラスもようやく以前の環境に戻りつつあります。職員と利用者様には怪我人も無く幸いでしたが、培養中の菌床の棚が崩れる甚大な被害を受け、収穫量に大きな影響がありました。そのため菌床の製造を一時的に停止するなどの対応を取っていましたが、九月末から製造を再開し、復興に向けて利用者様と職員が一丸となり尽力して来ました。十一月からは、イベント販売も再開しており、地域の皆様やお客様から温かいお言葉や激励のお言葉を頂き、職員と利用者様に大きな励みになっています。

震災前の状態に戻すのには、まだまだ時間が掛かりますが、今後も復興に向けて一致団結し取り組んで参りますので、何卒よろしくお願ひ致します。



写1) 震災当時の培養室の様子
写2、3) 現在の様子(菌床棚)



※椎茸のご利用の方はこちらに連絡下さい。

●ほべつ就労支援センター
緑竜アペラス
電話 〇一四五-四五-二三二六
FAX 〇一四五-四五-二三二七

人事異動

※十二月三十一日発令

■正規職員退職【愛誠園】

▽介護職員・阿部 圭介

▽介護職員・阿部江理子

※一月一日発令

■正規職員採用【愛誠園】

▽介護職員・小原あゆ美

ご寄付に感謝

東京都の故宮澤豊子様の遺言により、全国の障がい者、盲導犬育成団体十ヶ所に浄財を寄付をすることになり、その十ヶ所の中に当法人を選出していたいただき、昨年八月に、遺言執行者の森越司法書士様より多額の寄付をいただきました。大変感謝しております。

今後故宮澤豊子様のご厚情に添った事に使用させていただきます。

職員募集

あなたの笑顔を

必要としています

人と人の「ふれあい」

が魅力の職場です

チャレンジしてみませんか

介護職員・支援員・介助員を求めています。

(高齢者事業所)

愛誠園

(障害者福祉事業所)

ほべつ誠光

ほべつ誠和

ほべつ就労支援センター

むかわ夢風船

*くわしくは

社会福祉法人 愛誠会

本部事務局

〇一四五(四五)二四五五

